

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 538 号	氏名	谷口 真一郎
学位審査委員	主 査	前村 浩二	
	副 査	蒔田 直昌	
	副 査	澄川 耕二	
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>1992 年から臨床応用されている二葉式機械弁の ATS 弁について、大動脈弁置換術(AVR)、僧帽弁置換術(MVR)、大動脈弁および僧帽弁両弁置換術(DVR)での長期遠隔成績を検討したものであり目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>1999 年から 2010 年までに ATS 弁を単独使用して弁置換を施行した 16 歳以上の患者 268 例のうち追跡可能であった 259 例を対象とし、弁関連合併症発症率を解析したもので、研究手法も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で解析した結果、術後 10 年の患者毎の弁関連性合併症発症率は AVR 群 2.33%/年、MVR 群 1.60%/年、DVR 群 3.25%/年であった。その内訳は血栓塞栓症発症率 1.22%/年、出血性合併症発症率 0.87%/年と低値であった。また血栓弁発症率は 0.09%/年、心内膜炎発症率 0.09%/年と低値であり、パンヌス形成による人工弁機能不全は認めなかった。再手術回避率は 99.2%と従来の機械弁と比較して良好な成績であり ATS 弁が耐久性に優れ、臨床上有用な機械弁であることが示された。</p>			
<p>以上のように本論文は心臓外科学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			